

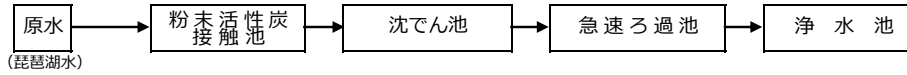
II 水道施設概要

- 1 施設概要
- 2 浄水場主要施設

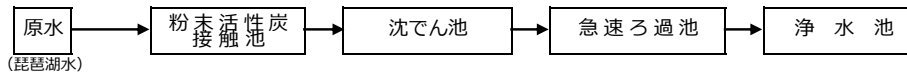
1 施設概要

浄水処理フロー (令和元年度)

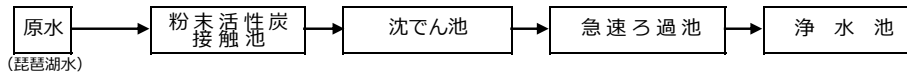
比良浄水場 能力 4,000 m³/日



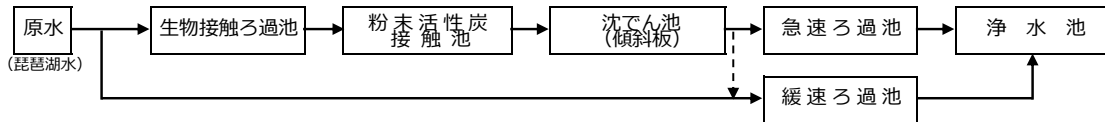
八屋戸浄水場 能力 5,200 m³/日



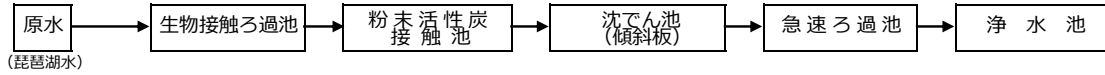
真野浄水場 能力 45,000 m³/日



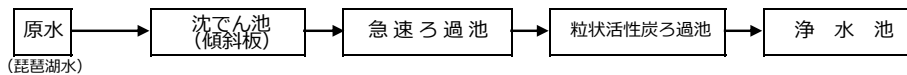
柳が崎浄水場 能力 急速37,500 m³/日、緩速7,500 m³/日



膳所浄水場 能力 48,800 m³/日



新瀬田浄水場 能力 37,500 m³/日



2 浄水場主要施設

比良浄水場



比 良浄水場は、広域的に融通可能な給水を実現するために、南北に細長い志賀地域を適正な配水区域に分け、志賀町上水道第1次拡張事業（昭和60年度～平成元年度）において志賀第2浄水場として建設されました。平成元年4月に通水を開始し、大津市との合併（平成18年）に伴い比良浄水場と名称を変更しました。北湖の表流水を原水とし、処理した水は低区地域に自然流下方式で給水し、山間住宅地域へは高区配水池を経由し給水しています。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
粉末活性炭接触池（RC造）：1池
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：3池
浄水池（RC造）：1池
施設能力：4,000m³/日



住所：大津市南比良161

八屋戸浄水場



八 屋戸浄水場は、志賀地域の発展に伴う水需要に対応するために志賀町上水道第2次拡張事業（平成8年度～平成12年度）の一環として志賀第1浄水場として建設され、平成12年4月に通水を開始しました。その後、大津市との合併（平成18年）により八屋戸浄水場と名称を変更しました。北湖の表流水を原水とし、処理した水は低区地域に自然流下方式で給水しています。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
粉末活性炭接触池（RC造）：1池
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：3池
浄水池（RC造）：2池
施設能力：5,200m³/日



住所：大津市八屋戸2320

真野浄水場



真野浄水場は、本市北部地域から中部地域の急速な発展に伴う水需要に対応するために、第6次拡張事業の一環として建設、昭和55年7月より通水を開始しています。第8次拡張変更事業（平成20年度～27年度）に伴い、平成22年に45,000m³/日に能力を拡張しました。本市では、初めて北湖の表流水を原水とし、処理した水は北部低区地域に自然流下方式で給水し、山間部に伸びる住宅地へは、高区配水池を経由して給水しています。また、異臭味対策として、粉末活性炭接触池を設けています。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
粉末活性炭接触池（RC造）：1池
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：6池
浄水池（RC造）：1池
施設能力：45,000m³/日



住所：大津市真野四丁目25-34

柳が崎浄水場



柳が崎浄水場は、本市における上水道の発祥の地で、昭和3年に山上浄水場（昭和44年に廃止）の水源池として設置されました。昭和23年に15,000m³/日の緩速ろ過池が建設され、山上浄水場にかわり本市の中心的な浄水場となりました。

第4次拡張事業（昭和35年度～40年度）において27,000m³/日に能力を拡張し、第5次拡張事業（昭和42年度～51年度）では、急速ろ過池30,000m³/日（昭和48年8月完成）を建設し、大津市の発展と生活洋式の多様化に伴う水需要の増大に対応してきました。

昭和61年に粉末活性炭接触池を建設、第8次拡張事業（平成6年度～22年度）で平成10年に生物接触ろ過施設を設け、異臭味対策を講じています。

なお、当浄水場内に浄水管理センターがあります。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
生物接触ろ過池（RC造）：6池
粉末活性炭接触池（RC造）：1池
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：12池
(37,500m³/日)
緩速ろ過池（RC造）：5池
(7,500m³/日)
浄水池（RC造）：1池
施設能力：45,000m³/日



住所：大津市柳が崎6-1

膳所浄水場



膳所浄水場は、膳所・石山地区市街地の給水量増加に対応するため、第3次拡張事業（昭和24年度～32年度）において、旧膳所城二の丸跡に5,000m³/日の緩速ろ過池を建設し、第4次拡張事業（昭和35年度～40年度）で、初めて二段ろ過方式を採用して、15,000m³/日に拡張し、さらに、水需要の増大に対応するため、第5次拡張事業（昭和42年度～51年度）で急速ろ過池を建設しました。第7次拡張事業（昭和57年度～平成5年度）で、緩速ろ過池を撤去、急速ろ過池を建設し、浄水能力48,800m³/日となりました。

平成元年に粉末活性炭接触池を建設、さらに平成4年には生物接触ろ過池を設け、異臭味対策を講じています。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
生物接触ろ過池（RC造）：8池
粉末活性炭接触池（RC造）：1池
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：6池
浄水池（RC造）：2池
施設能力：48,800m³/日



住所：大津市本丸町7-1

新瀬田浄水場



新瀬田浄水場は第7次拡張事業（昭和57年度～平成5年度）の一環として建設、昭和60年7月より通水を行なっています。

当浄水場は、異臭味対策として本市では現在唯一、粒状活性炭接触ろ過による処理を行なっています。処理した水は膳所浄水場と共に一里山配水池を經由し本市東南部一帯に給水しています。

水源：淀川水系琵琶湖表流水
薬品沈殿池（RC造）：2池
急速ろ過池（RC造）：6池
粒状活性炭ろ過池（RC造）：6池
浄水池（RC造）：2池
施設能力：37,500m³/日



住所：大津市萱野浦1-1